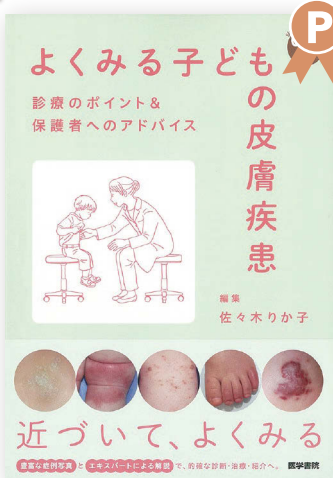




《ジェネラリスト BOOKS》

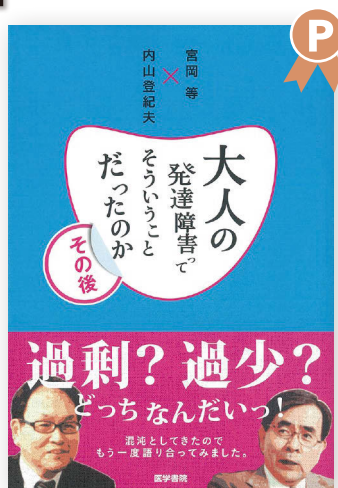
よくみる子どもの皮膚疾患

診療のポイント&保護者へのアドバイス

佐々木りか子=編

本体 4,000 円+税/A5 判・256 頁/医学書院/2018

小児科・内科を訪れる子どもの多様な皮膚症状を、豊富な症例写真とともにエキスパートがわかりやすく解説。外来で診ることが多い子どもの皮膚疾患の「原因」「症状」「鑑別」「治療」のほか、感染症では「登校(園)の目安」、あざ・色素異常では「治療や紹介の目安」もわかる。保護者への情報提供にも重点を置いており、最新のエビデンスに基づくスキンケアの指導法から、的確なホームケアへつなげることができる。

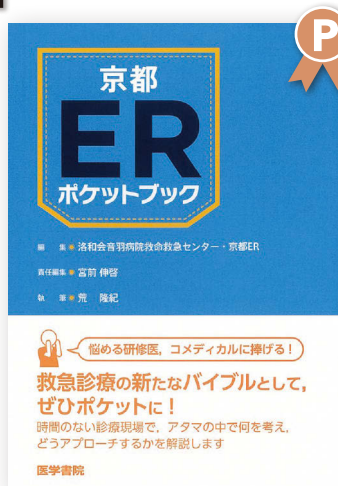


大人の発達障害って そういうことだったのか その後

宮岡 等、内山登紀夫=著

本体 3,000 円+税/A5 判・330 頁/医学書院/2018

好評書『大人の発達障害ってそういうことだったのか』の続編企画。今回も一般精神科医と児童精神科医が、大人の発達障害(自閉症スペクトラム・ADHD など)をテーマに忌憚のない意見をぶつけ合った。過剰診断や過少診断、安易な薬物投与、支援を巡る混乱など、疾患概念が浸透してきたからこそ浮き彫りになってきた新たな問題点についても深く斬り込んだ。「身体疾患の陰に何かある?」と思われる患者さんの理解のために!



京都 ER ポケットブック

洛和会育羽病院 救命救急センター・京都ER=編

宮前伸啓=責任編集

荒 隆紀=執筆

本体 3,500 円+税/A6 判・416 頁/医学書院/2018

多くの研修医がERで経験すること——救急車で搬送された患者の緊急対応についていけず、置いてけぼり。ウォークイン患者の間診に時間がかかり、検査治療計画が立たず、あっという間に1時間。イライラする看護師、患者、家族——。ところが上級医はごく短時間でそれらを組み立て解決し、そのうえ系統だったフィードバックまでこなす。本書は、研修医時代の荒隆紀医師の問題意識から生まれた書。上級医は、頭の中でこう考えようアプローチしている!